



Date

県内経済 〈11月〉

概 況

県内経済は、厳しい状況が続いているが、緩やかに持ち直している

木材の生産は前年割れが続いているほか、機械金属もやや足踏みの動きとなっているものの、電子部品は持ち直している。建設は、公共工事、住宅着工ともに前年を上回った。個人消費は持ち直しの動きとなっている。雇用情勢は改善の動きが弱まっている。

産業別の動向では、電子部品の生産額は、次世代通信規格「5G」関連製品の需要が堅調であるほか、車載向けも持ち直しており、7か月ぶりに前年を上回った。機械金属の生産額は、ウエイトの高い輸送機械で回復の動きにあるが、10か月連続で前年を下回った。木材の生産量は、普通合板(10月)、製材品ともに8か月連続で前年を下回り、生産調整が続いている。公共工事請負額は、2か月ぶりに前年を上回り、年度累計でも前年比増加に転じた。地元大手(12社)の建設受注額は、官公庁、民間工事ともに振るわず、2か月ぶりに前年を下回っ

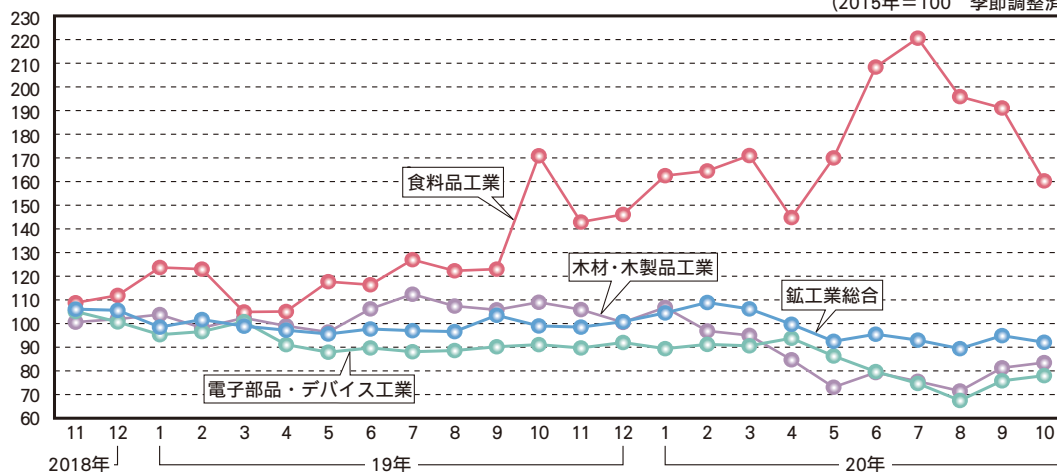
た。住宅着工は、5か月ぶりに前年を上回った。個人消費は、小売店販売額(10月)が2か月ぶりに前年を上回ったほか、新車乗用車販売台数も2か月連続で前年を上回り、全体として持ち直しの動きとなっている。

有効求人倍率は前月比0.04ポイント上昇の1.25倍となった。新規求人数は前年比1.7%減となり、19か月連続で減少した。事業主都合離職者数は前年比6.1%増となり、8か月連続で前年を上回った。

企業倒産件数は3件、負債総額は4億3,600万円であった。倒産件数は2012年11月以降、一桁台または0件で推移している。

秋田県鉱工業生産指数の推移

(2015年=100 季節調整済)



資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」



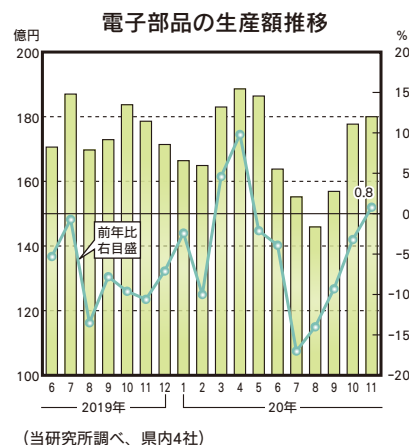
電子部品

生産額、7か月ぶりに前年比増加

11月の生産額は前年比0.8%増となり、7か月ぶりに前年実績を上回った。

スマートフォンや基地局向け、タブレット端末などの「5G」関連の需要が堅調なほか、車載向けも、先行して回復している海外向けに加え、国内向けも持ち直してきたことから増加傾向にある。

その他品目別では、主力のセラミック・コンデンサやコイルは堅調に推移しているものの、半導体素子は大幅減が続いており、底を打った感のあった産業向け液晶パネルも再び減少に転じている。



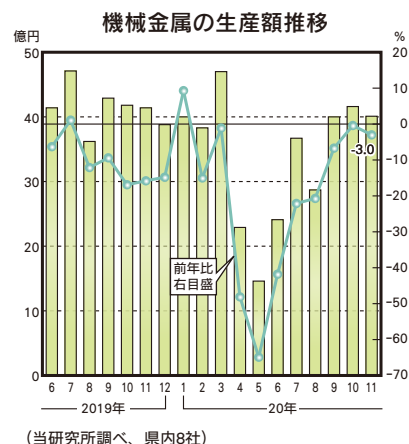
機械金属

回復、やや足踏み

11月の生産額は前年比3.0%減となり、10か月連続で前年実績を下回った。金額的にはほぼ前年並みの水準となっているものの、6月以降漸次縮小していた前年比の減少幅が、わずかながら拡大し、回復はやや足踏み状態となった。

ウエイトの高い輸送機械が、好調な海外向けに加え、国内向けも回復してきたことから、総体の水準を引き上げているものの、金型、建機部品、製鋼品は減少が続いており、減少幅も拡大傾向にある。

公共工事関連では、水道部品は堅調に推移しているものの、橋梁・鉄骨は大幅減が続いている。



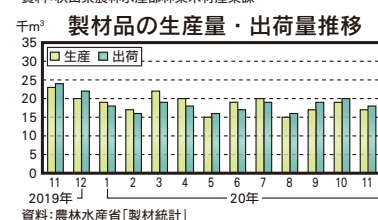
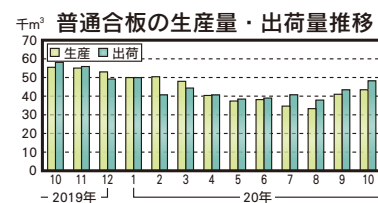
木材業

秋需期迎え荷動き増加も依然前年割れ

全国的に、新設住宅着工戸数の減少と新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中、秋需期を迎え荷動きは増加したものの前年実績を下回り、本県でも未だ回復の兆しは窺えない。

10月の普通合板は、生産量が前年比21.7%減と8か月連続で減少し、出荷量も同17.1%減と13か月連続で前年を下回った。メーカーによる生産調整（減産）の効果から、在庫量は同14.4%減と3か月連続で前年比マイナスとなった。

11月の製材品は、生産量が前年比26.1%減と8か月連続で前年を下回り、出荷量も同25.0%減と10か月連続で減少した。在庫量は同3.3%増と17か月連続で前年を上回った。

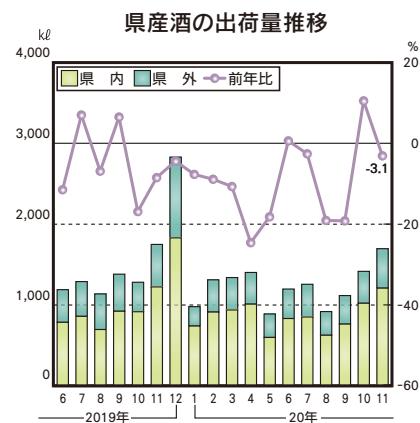


酒 造 業

出荷量、2か月ぶりに前年比減少

11月の清酒出荷量は、前年比3.1%減と2か月ぶりに前年を下回った。新型コロナウイルス感染再拡大の影響から、月後半に飲食店などの業務用需要が縮小した。出荷先別では、県内向けは同7.2%減、県外向けも同1.3%減となった。県外の主な出荷先別では、東北5県が同1.4%増となったものの、北海道は同2.9%減、東京も同6.7%減となった。

種類別では、普通酒は前年比5.4%減、特定名称酒は同0.6%減と、ともに減少した。特定名称酒の内訳では、吟醸酒が同1.9%増と前年を上回った一方で、本醸造酒は同9.7%減、純米酒も同0.8%減と前年を下回った。



資料：秋田県酒造組合

建 設 業

公共工事 国が増加し、2か月ぶりに前年比増加

11月の公共工事請負金額は、県、市町村が減少したものの国が増加し、前年比103.5%増と2か月ぶりに前年を上回り、年度累計でも前年同期比3.4%増と増加に転じた。

一方、当研究所調査による地元大手12社の11月の新規受注額は、前年比79.6%減の1,118百万円と2か月ぶりに前年を下回った。民間工事は、小売業の店舗新築やエネルギー関連施設の大口受注があったものの、同79.1%減と前年実績を大きく下回り、官公庁工事も、土木、建築とも振るわず同80.2%減と落ち込んだ。年度累計の受注実績でも前年同期比33.3%減と前年を大幅に下回っている。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区 分	11月	前年比	4～11月	前年同期比
件 数	127	△18.1	2,244	△1.7
請負金額	19,384	103.5	142,522	3.4

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区 分	11月	前年比	4～11月	前年同期比
官 公 庁	454	△80.2	12,976	△25.1
民 間	664	△79.1	3,835	△51.3
合 計	1,118	△79.6	16,811	△33.3

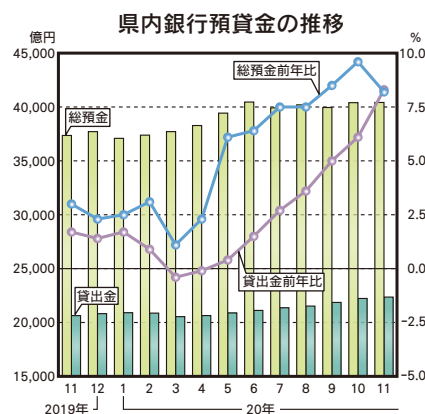
(当研究所調べ、県内12社)

金 融

預金、貸出金とも高い伸び続く

11月末の県内銀行の預金は、前月末比19億円増加し、前年比でも8.2%の増加となった。貸出金は、前月末比128億円増加し、前年比でも8.3%の増加と7か月連続で前年を上回った。新型コロナウイルス感染症の影響により資金需要が高まっているほか、一部企業で手元資金を厚くする動きがみられ、預金、貸出金とも引き続き高い伸びとなっている。

11月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は3件(前年比2件減)、負債総額は4億3,600万円(同55.3%減)となった。倒産件数は2012年11月以降97か月連続で一桁台または0件で推移し、低水準が続いている。



資料：秋田県銀行協会

住宅着工

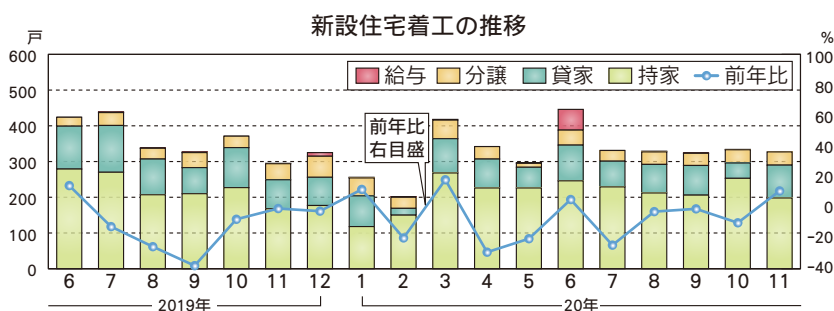
着工戸数、5か月ぶりに前年比増加

11月の県内新設住宅着工戸数は、327戸（前年比32戸増、10.8%増）であった。分譲住宅と給与住宅は減少したものの、主力である持家、貸家が増加し、5か月ぶりに前年を上回った。

利用関係別では、持家が198戸（前年比30戸増）、貸家が92戸（同11戸増）、分譲住宅37戸（同8戸減）、給与住宅0戸（同1戸減）となった。

持家は、2か月連続で前年を上回った。貸家は、秋田市などで減少したものの、横手市、由利地域、鹿角地域などで増加し、2か月ぶりに前年を上回った。分譲住宅は、2か月ぶりに前年を下回った。

地域別では、県央は持家と貸家、県南は貸家と分譲住宅の着工が各々増加し、前年を上回った。県北は貸家と分譲住宅の着工が減少し、前年を下回った。



住宅着工動向

(単位：戸、%)

区分	2020年11月	前年比	20年1～11月	前年比
県北	74	△7.5	766	△6.2
県央	187	21.4	1,978	△3.0
県南	66	8.2	861	△16.2
合計	327	10.8	3,605	△7.2

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

全体として持ち直しの動き

10月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、前年比6.9%増となり、2か月ぶりに前年を上回った。

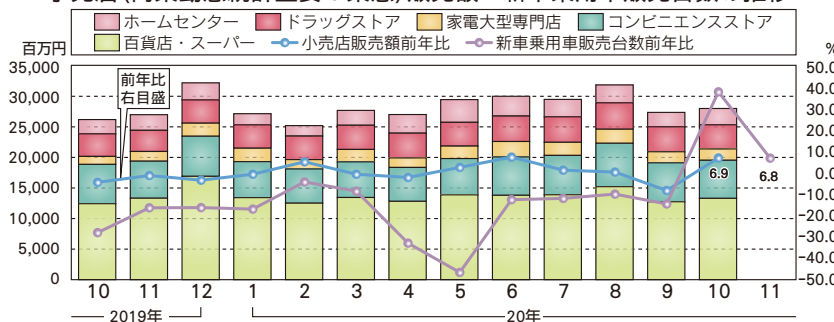
内訳をみると、コンビニエンスストア（同3.1%減）で前年比減少が続いているものの、家電大型専門店（同41.7%増）、ホームセンター（同14.5%増）、百貨店・スーパー（同7.2%増）、ドラッグストア（同6.9%

増）でいずれも前年を上回った。

11月の新車乗用車販売台数は、前年比6.8%増となり、2か月連続で前年を上回った。

内訳をみると、登録車は同9.4%増と2か月連続で前年を上回り、軽乗用車も同3.6%増と2か月連続で前年を上回った。

小売店（商業動態統計主要6業態）販売額・新車乗用車販売台数の推移



11月の新車乗用車販売台数（単位：台、%）

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	2,723	6.8
登録車	1,532	9.4
普通車	736	32.1
小型車	726	△6.4
輸入車	70	4.5
軽乗用車	1,191	3.6

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標（前年比）（単位：%）

区分	8月	9月	10月
①消費者物価指数	0.0	0.1	△0.9
②勤労者名目賃金	4.3	3.3	1.0

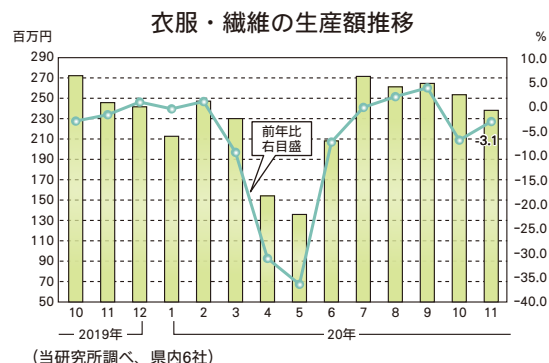
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模5人以上）

衣服・繊維

生産額、2か月連続で前年比減少

11月の生産額は、前年比3.1%減となった。医療・衛生関連商品の減少に加え、一般衣料も減少し、2か月連続で前年を下回った。

受注は、各アパレルメーカーとも売上減少にともない商品在庫が高止まりしていることから、5か月連続で前年を下回った。



雇 用

有効求人倍率、前月比0.04ポイント上昇の1.25倍

11月の有効求人倍率は、前月比0.04ポイント上昇の1.25倍となった。常用の内訳では、一般は前月比横這いの1.23倍、パートは同0.01ポイント上昇の1.18倍となった。求人が求職を上回って推移しているが、新型コロナウイルス感染症の影響から改善の動きが弱まっている。

新規求人数は前年比1.7%減となり、19か月連続で前年を下回った。産業別にみると、製造業は同15.9%減となった。「電子部品・デバイス・電子回路」で増加したものの、「情報通信機械」、「電気機械器具」などで二桁の減少率となった。非製造業は同

0.2%減となった。「情報通信」、「サービス」などで増加したものの、「宿泊、飲食サービス」、「生活関連サービス、娯楽」、「運輸、郵便」で二桁の減少率となった。

新規求職者数は前年比8.4%減と、14か月連続で前年を下回った。

事業主都合離職者数は前年比6.1%増と、8か月連続で前年を上回った。

地域別雇用状況（パートを含む常用）をみると、新規求人数は県北、県央、県南ともに減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.40倍、県央が1.22倍、県南が1.06倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数（全数）

(単位：人、%)

区 分	2020年10月		11月	
	2020年10月	前年比	11月	前年比
新規求人計	8,091	△16.5	7,648	△1.7
製造業	727	△18.5	629	△15.9
食料品	200	△4.8	103	△18.3
繊維	104	△33.3	123	△15.2
木材・木製品	32	△20.0	20	△35.5
電子部品・デバイス・電子回路	63	△53.7	103	35.5
電気機械器具	32	△31.9	28	△41.7
情報通信機械	16	220.0	5	△79.2
非製造業	7,364	△16.3	7,019	△0.2
建設	1,139	7.0	974	9.2
情報通信	53	△39.1	44	41.9
運輸、郵便	420	△45.8	337	△11.1
卸売、小売	1,316	△26.3	1,332	7.8
宿泊、飲食サービス	705	△14.6	739	△27.3
生活関連サービス、娯楽	235	△12.3	232	△14.4
医療、福祉	1,800	△4.8	1,565	2.4
サービス	933	△19.7	954	29.4
新規求職者数	3,791	△5.3	3,377	△8.4
有効求職者数	16,578	6.0	16,412	7.7

資料：秋田労働局職業安定課
(注) 臨時・季節を含む

有効求人倍率および事業主都合離職者数

(単位：倍、人、%)

区 分	2020年8月	9月	10月	11月
有効求人倍率	1.20	1.23	1.23	1.23
パートタイム	1.18	1.18	1.17	1.18
全数 (季調済)	1.23	1.23	1.21	1.25
事業主都合離職者数	366	230	273	173
前年比	188.2	21.7	20.3	6.1

11月の地域別雇用状況（パートを含む常用）

(単位：人、%、倍、ポイント)

区 分	新規求人数		有効求人倍率	
	前年比		前月比	
県北	1,666	△3.2	1.40	△0.03
県央	3,435	△0.5	1.22	0.02
県南	1,480	△13.2	1.06	0.01
合 計	6,581	△4.3	1.22	0.02

(注) 臨時・季節を除く